

うしく里山の会 広報誌

さとやま

(No. 66 2008年8月号)

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>



五年目の畑は

七組の家族と一緒に

じゃがいもプロジェクト 本多 昭子

七組の家族と収穫祭

活動日を原則第三日曜日に設定。三月半ばに畝づくり準備。

里山の会会員だけの楽しみ場にはせず、広く多くの人にも土に親しんでもらおうと、親子での参加を広報うしくでお知らせしました。今年は七家族の親子が、二月末の種芋の植え付けから参加しています。

種芋を植えて一〜二回の土寄せと芽欠き、雑草取り。そして四ヶ月後には収穫を迎えました。

小さな花を踏んでしまうことに気づいた子どもたちも、時間の経過と共に走り回れる野原の感触を体感しながら、土の中にはいろいろな生きものがあることを発見したり、新しい遊びを創造したり様々な発見があったようです。

今年には四種類のじゃがいもを植えました。

男爵・じゃがいもと言えば、この煮とろけが魅力、マッシュポテトにどうぞ。

メークイン・時間が経つほど旨味が増すとか。

お芋の姿形を生かした煮込みにどうぞ。

キタアカリ・男爵の改良種で保存によいらしい。

アンデスレッド・この色味と少しのモチモチ感が現代人好みにピッタリ。

掘立てを皮ごと茹でて食べる。このホッカホカの味は最高。ちよつとだけの塩味はあっても良いかな。

沢山の人が知恵と労力を得て、五年目の収穫の日を迎えました。

牛久自然観察の森の中にあるこの畑は、子どもたちの自然体験に格好の場所であると聞いたことがありました。今回、植え付けから収穫までの一連の作業を通じて子ども達はどのような思い出を残したのでしょうか。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

プロジェクト活動報告

巨木リサーチ事業報告 横山 さえ子

巨木・古木・希少木を探して

三年目は、個人の屋敷や学校の校庭などにある巨木・古木・希少木を対象とする計画で、対象になる調査候補木を二年目に探し、報告することになった。

さてどう探そう。目線は常に上をむく。左右をみる。気になる時はバックする。そして分かったことは、樹高・樹冠と太さは比例するがシラカシだけは、必ずしもそうでない。さぞ太かろうと幹を調べると以外に細い。堅い木と書くから、密で、太るのも、時間がかかるのだらう。

下町の友人は「『ヤマ』を持たなければ、たいした金持ちではない」と言う。「ヤマ」は旧六号線沿いなどの家の屋敷が奥に深く、スギやケヤキなどを何本ももっていることを言うそう。ほればれするケヤキをもつ家がけっこうある。木は財産として存在し、自分の代で消費することなく、子孫にひきつがれてゆく。

ヤマザクラでみことな、遠山ザクラ」があった。



調査木確定調査
ユーカーの下で 08.3.12 渡辺

幹が下から何本にもわかれていたので調査木には入らなかつた。下からみる、そばの農道からうへん近くをみることができ、今年は十分楽しんだ。

塚本産業のつしろにあるコブシは大きい。まわりの人はあまり注目していない。今年は花が少なかつたが、咲きほこるときをみたい。村山医院のシモクレンはみことだつた。濃い赤紫と内側の白い花が、木全体に咲きほこっていた。散つた花びらも美しいが、清掃する人は毎日大変だつたらうと思う。

まっ赤な実が、常緑の葉の中に美しいシロタモギヤーギヤーとムクドリがうるさく実をついばむので、早く調査しないと心配になつた。持主は貴重な木だと思つたことはなかつたそう。

オニグルミの木も、長野からここに入植した時もつてきたものだつた。自分たちの代では切らないと言っていた。

なんでこんなところにユーカーが、チャンチンが・・・など珍しいものもみつかった。自生のもの以外は、植えた人の思いがこもっている。

この調査がなければ、探すこともなかつたし、持主の話聞くこともなかつた。楽しいことだつた。自転車で行動したが、やあい、車以外に不便でしよ。

追記：以上のような経過で横山さんから約五十本の調査候補木の紹介がありました。調査候補木選定チームの下見に続いて、グループ正副世話人による調査木決定がなされました。その中には横山さん紹介の調査木として、オニグルミ・クロガネモチ・ケヤキ・テータマツ・ナツグミ・ハンカチノキ・ヒマラヤスギ・ユカリノキが含まれています。なお、希少木のハリグワの紹介もありましたが、管理者不明のため対象木から除きました。(渡辺)



牛久自然観察の森報告

齊藤 孝

森はみんなの宝物 会員の皆さんのパワーを森へ！

新ボランティア

『観察の森 もっといい場所増やし隊』第二回

牛久自然観察の森内の野外施設の改修作業やベ
ンチ作りなどのボランティア活動を月一回の頻度
で行う「観察の森 もっといい場所増やし隊」第二
回の活動はカップ沿付近の園路の「ぬかるみ改善」。
園路の表面部分の土

が流出して、降雨の度
にぬかるみが発生して
しまう場所の土壌改
善を行いたいと思いま
す。なお、今回の活動
には大学生インターン
も合流します(日本大
学生物資源科学部森
林資源科学科二年生
二名)。体力自慢の皆
さんの参加をお待ち
しています。



7月の竹垣づくり 08.07.09 渡邊

【活動日】 八月八日

(金)午後二時～三時三〇分(雨天中止)

持ち物) 軍手、タオル、長靴、帽子、飲み物

参加希望の方は前日までにお電話にてお知ら

せ下さい

牛久自然観察の森029-874-6600 (担当・渡邊)

お知らせ

ネイチャーセンターの冷房は二十八 に設定

されていますが、省エネのため、猛暑日や昼間等特
定の時間のみ稼働させています。ご来館の際は飲み
物や団扇、タオル等をお持ち下さい



結束町みどりの保全区エコアップ 作戦活動予告 石神 良二

皆さんご覧になりましたか？ 観察の森に隣接

する「結束町みどりの保全区」では、地域にお住
まいの皆さんの協力のもと、会員による下草刈りや
倒木処理を中心としたヤマの手入れが進み杉林の
奥まで日差しが届くようになりました。地道な取
組みではありますが、着実に成果が感じられる
日々です。まだご覧になっていない方は、ぜひ足を
運んでみて下さい。さて、暑さの厳しい八月とスズ
メバチの多い九月は「エコアップ作戦」は活動を休
止します。次回は十月となります。活動は秋に再
開、また元気な森づくりを行いますよ。

(問い合わせ先 029-874-6600 担当・石神)



じゃがいもプロジェクト活動報告

本多 昭子

第五回目 六月二十八日 九時～十一時

参加者 十三名(一般参加十名 三家族)

活動内容 除草・土寄せ・試掘り

除草という努力の効があつて、やたら立派な茎の

太さに成長したアカザとそばの花が目に入るが、
前年の草藪との違いは顕著である。畝を立てれば見
事な畑の姿になりました。日々の協力者に大感謝
です。じゃがいもの葉は殆ど枯れて、収穫期のサイ
ンが出ていますが収穫祭までのこの三週間が気
になります。

今回、収穫祭のリハーサルをやりました。男爵
を試し掘り、スコップの扱いを体験することになり
ました。連作(五年目)のため、出来栄は小粒でス
トロンの広がり多くはありませんでした。
以前、Aさんに教わった小粒の料理が美味しかつ
た、とバアバに催促した小学校三年生のD君の言
葉に救われた感じでした。

寄稿 齊藤仁子さんのお孫さんが五回までの活動
を終えて、感想を寄せてくれました。

さいとう 大が 八歳

さいしよは、草むしり、りん車にカマで切った草
を入れます。草に毛虫ついていたのでカマでどかしま
した。どんどん草を切っていく、休けい時間にうめジ
ユースをこちそうしてもらい、ぼくたちもチョコッ
プクッキーをこちそうしました。

つぎは、男しゃくというじゃがいもしゅうかくで
す。バケツにじゃがいもを入れ、小さいのがおいしい
ので、小さいものをいっぱいにとって、じゃがいもを分
けてもらって帰りました。またいつ、しゅうかくも
草むしりもやりたいです。

齋藤 心馬 十歳

ぼくは、じゃがいもプロジェクト初めて参加して「小さい子ばかりだな」と思いました。でも、一回目の後に、ドッジボールに二ヶ月ぐらいつぶされました。

そして、久しぶりに行った時には、じゃがいもは大きくなっていました。

雑草取りをした後にじゃがいものしゅうかくをしました。これからの活動がたのしみです。

そのほかのお子さんは、九ヶ月のあかちゃんをはじめ、一歳から五歳まで、八人が参加しました。



南部の自然を守る会活動報告
水土里ネットうしく 久保田 智

太陽が照り付け、蒸し暑い七月六日の日曜日、「南部の自然を守る会」の構成員であるうしく里山の会より八名、水土里ネットうしく事務局より一名、そしてこの活動について指導いただいている県稲敷土地改良事務所職員二名の計十一名が参加し、協働作業を実施しました。

参加者の自己紹介、当日のスケジュール確認に続き、早速協働作業につつまりました。作業の内容は、改良区内の耕作されていない遊休農地周辺の草刈作業と県稲敷土地改良事務所による生き物調査の二つです。約一時間の草刈作業の後、休憩をとりながら生き物調査のために仕掛けておいた網を引

き上げてみると、ザリガニ、ドジョウ、トウキョウダルマガエルなどの普段から見慣れている生き物のほかに、クチボソの一種も見つかり、豊かな自然がまだまだたくさん残っているんだなあ」と実感し、残りの草刈作業にやる気を与えてくれました。それからまた大量の汗をかきつつ一時間程度の草刈作業を行い、見違えるようにきれいになった現地に参加者同士で談笑をしつつ昼食を取りながら、今後の事業計画について意見交換を行いました。その中で、「農業従事者の方だけでなく、地域に住む人をはじめとする多くの方々の協力を得ながら、今ある自然を守り、そして育てていくための活動を行っていくべきであろう」との共通意見があげられていました。

現在、牛久市のみならず、多くの地域で遊休農地問題が取り

あげられていますが、未だ具体的な解決策は出ていないというのが現状であります。平成十九年度より導入された『農地・水・環境保全向上対策事業』を有効



遠山地区の協働作業 08.07.06 阿部

に活用し、遊休農地の増加に歯止めをかけながら、豊かな自然を次世代に引きつないでいくための様々な活動を実施していきたいと考えております。これからもうしく里山の会の皆様の積極的なご参加を心よりお待ちしております。



遠山地区の生きもの調査
小さな湧水の水たまりにモツゴ(好ホリ)を発見、自然が豊かな証拠です。

08.07.06 阿部



雑木林応援隊活動報告

雨宮 廣之

炭焼きは地球を救う

第二十三回国民文化祭・いばらき二〇〇八が今年の十一月に開催されるのに先立ち、文化祭に使用するアート作品用の炭の調達が必要として、炭焼きの事前練習を六月七、八日と行う事となったので参加して欲しい・・・と牛久市生涯学習課よ

り連絡が入りました。当日は、炭焼きの専門家である杉浦銀治氏が指導するとの事で、喜んで参加する事としました。因みに今回の題名「炭焼きは地球を救う」とは、杉浦氏が掲げているテーマです。

炭焼きは、伏せ焼きと呼ばれる方法で、まずトタン板の寸法に合わせてキレイに穴を掘ります。次に、煙突を立てる部分を掘り、下に竹を二本置きます。煙突の反対側が焚き口となりますが、焚き口から煙突方向へ空気が流れる道をつくる訳です。この竹の上に炭材を並べていきますが、下は細く、上は太くし、樹皮は上に向けてるように置きます。穴のサイズはトタン板に合わせて、巾、長さを決め、

深さはスコップ程度の約三十センチとします。炭材は、大凡四段を目安に平らに置いていきます。

炭材を並べ終わったら、両側に草を隙間無く詰めていきます。面白いのは、時間短縮のため



伏せ焼き 08.06.07 雨宮

炭材の上で焚き火をして、熾火を作る事です。これは、温度の上昇を助ける目的で行います。炭材にトタンを被せ、上からまんべんなく土を掛けていきます。焚き口からは、ドンドン火を焚き、土から煙が漏れていたら補修するのですが、簡易炭窯と言いつつ訳です。

杉浦氏によれば、最短十時間で焼き上がるとの事ですが、炭材が縮みますので、当然土が落ち込みます。その都度、補修する必要がありますので、その場を離れることは出来ません。

炭焼きの結果は、残念ながら失敗と言えますが、これは炭焼きの煙を利用して、アート作品を燻蒸しようとしたため、空気が流れが阻害され、所謂、

吸い込みが悪い状況になってしまったためと思っています。杉浦氏は、八十三才で世界中で炭焼きを指導してまわっているとの事、お元気なものです。



里山自然観察隊活動報告 坂根 輝一

第二回植物(湿地)観察会に参加して

七月十二日(土)、植物観察隊は「湿地(水田)の植物を観る」をテーマに田圃に繰り出しました。総勢十一名、渡辺泰さんの先導の下、梅雨の真ただ中といつのに、じりじりと照りつける炎天下、避ける木陰もない水田の広がりの中を文字通り汗だくで歩き廻りました。普段お百姓さん達しか立ち入らない聖地。牛久で湿地と言えるのは水田で、かるうじて湿地の環境を引き継いでいる場なので

す。
今回調査したのは、観察の森近く、小野川流域の水田六カ所(岡見三、上太田一、結束二)。
この辺り一体は、常陸風土記にも記載がある信太の郡で、当時は一大湖沼地帯で霞ヶ浦に流れ込む小野川が流れ、周辺には水辺植物が繁り水鳥たちの格好の生息地となっていたそうです。その後干拓が進み、現在、水田として湿地の姿が引き継がれています。

ところが、二四十年、瞬きしている間に、農薬による稲以外の植物を駆除する農法への変遷で植物はおるか昆虫、貝、魚、水や土までもが息絶え絶えの感があります。

渡辺さんの「水田には稲のほか何もありません」といつ前置きを頼りに、普段履くこともない長靴

を足に、おぼつかない足取りで田の畦を、なきものを探して歩きました。ありました、ありました。長年の絶え間のない駆除の戦いの果ても、けなげな住民が水田の中にちゃんと住んでいるのです。

ウキクサ、アオイ、コナギ、アメリカアゼナ、イボクサ、タウコギ、ヤナギタデ、……。発生量は少ないが約二十五種の湿地植物を確認。

中でも最も印象深かったのは「オモダカ」。この清楚な村娘が稲株の間にすくと立ち上がった姿には、思わず駆け寄って抱き締めたい気さえします。白い三弁の花とそれに劣らぬ葉の面高な、いかにも清らかな容姿には近寄りたがたい無垢な雰囲気もあります。

この「オモダカ」は万葉の昔から身近な植物でしたが、田を作る上では嫌われ者。

近年の農薬の散布にもめげず、今なお農家の人の手で引き抜かれるより術のない厄介ものなのです。でも、毎年水田にその姿を見せてくれるこの湿地の植物に、もっともって愛情を捧げるべきではないか



湿地の植物 08.07.12 白井

と思わず叫びたくなるような気にもなりました。尚、次回の「植物観察会」は八月九日（土）、観察の森駐車場九時集合。

観察場所は下根町の雑木林とコシユケイの林。問合せ先 029-873-6426（平塚）



アヤマ受託事業活動報告

久保田 節子

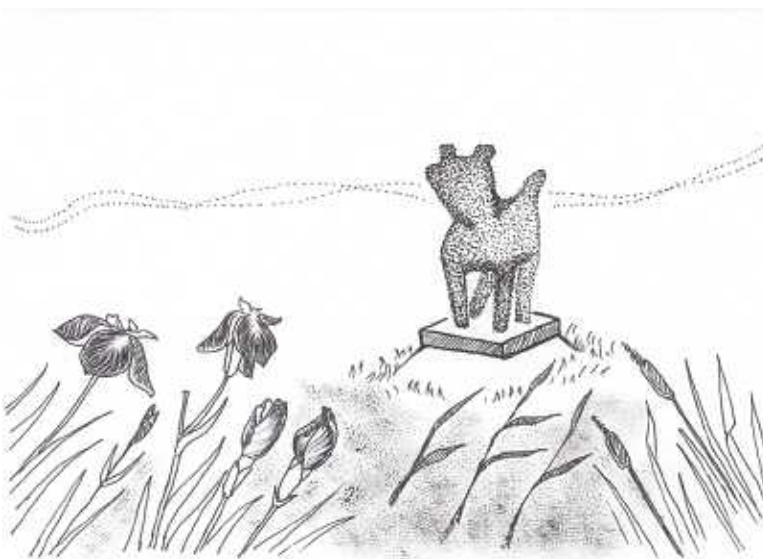
「株分けはするのかわ？」、「葉っぱの先が枯れているけど、どうしたんだ？」牛久アヤマ園で花菖蒲の最盛期に、除草作業をしていると、来園されたお客さんから矢継ぎ早に質問されたりする。

「株分けは、花が終わったところやりませう」「葉っぱの先が枯れているのは肥料のやり方が悪かったんだと思います」何とか返答すると、次には「あやめと花菖蒲はどこが違うんですか？」作業しながら、どういつづに説明したら良いのだろうと考えていたら、近くで作業していた人が、上手に答えてくれました。花びらの元のところが、網目状になっているのがあやめで、花びらの中央の元のところから黄色のすじが出ているのが花菖蒲。かきつばたは白いと、後に先輩が教えてくれました。

いつものように、花菖蒲の根元の草を取りはじめたら、畝の向こう側の少しこんだところは何かがいる！。目に入ったのは、赤いハサミを振り上げていきり立つザリガニであった。無視してそのままメートルほど除草が進んだところで、またしても畝

の向こう側でハサミで威嚇するザリガニがいた。先ほどの奴が追いかけてきたのか？。それとも別のザリガニか？。少してからザリガニのいた辺りを見ると、もう奴の姿はなかった。一匹だったのか、二匹いたのか、いまだに謎である。

七月に入ると、ひと頃の喧騒もとこへやら。花の見ごろも終わったかなという感じで、お客さんもまばらになってきます。アヤマ園の作業は、お礼肥えをした後に、株分けの時期になりました。今回の株分けをするところの花菖蒲を抜き取り機械で耕します。その後、鍬で畝をつくり直していきます。かたまつて増えた株を一本ずつほくしていき、余分



6月のアヤマ園 久保田さんのペン画

なところは鎌で切り落としたりと根気を要します。そしてきれいに株分けした苗を、新しい畝に順次植えていきます。次々と伸びてくる草に追われつつもつすくアヤマ園にも本格的な夏がやってきます。



そばプロジェクト活動報告

横山 さえ子

真夏の種まきから、初冬のそば打ちまで今年も活動が始まります。

十組の親子を募集しています。

特に子どもたちに、農業体験から働く楽しさ、

収穫の喜び、親と共に働くことで、きずなを深めてもらえれば、と思っています。

今年も百坪。

種まきから、収穫まで約三ヶ月間、楽しんで下さい

八月二十三日(土) 種まき

十月二十五日(土) そば刈り

十一月一日(土) 実落し

は梅林奥の畑(雨天時は一週間後に実施)

(十一月二日(日)〜 一週間位天日干し)

十一月二十二日(土) 唐箕かけ・観察舎

十一月二十九日(土) 個分け・NC

十二月六日(土) そば打ち・観察舎

時間 全て九時〜十二時くらい

参加費 会員無料

そば打ち実費 約五百円くらい



里山の会主催行事・報告
お知らせ 渡辺 浩美

第一回「さとやませミナー」報告

六月二十九日(日) 熱気あふれるセミナーとなりました。参加者は十三名。講師は、牛久自然観察の森のレンジャーでもあった特定非営利活動法人つくば環境フォーラム代表理事の田中心とみ氏です。

先ず、坂代表の挨拶があり、活動の記録写真を見ながらNPO法人の活動の概要をお聞きしました。つくば環境フォーラムは、筑波山麓で里山保全活動の他に、筑波山麓自然学校やブナ林の調査などの委託事業も行っています。

その中で、最近大変成果があった事業に、「すそみろく」という情報紙の発行があります。この冊子は、年4回の発行ですが、各区長さんの協力を得て地元全戸に配布されています。編集作業は地元の方たちが十数名集まって行われ、様々な里山保全活動が広がっています。最初はワークショップなどできつかけ作りをして立ち上げをお手伝いして、地元が中心となり持続的に活動を行うように働きかけをしています。

休憩を挟んで、参加者からの質問をうけました。つくば環境フォーラムとつくし里山の会との会員数、事務局の運営などとても熱心な質問がたくさん出されました。アンケートの結果では、今後の里山の会の活動に「つなげたい」という意見が多数寄せられました。

今回は、八月三十一日(日) 午前10時〜正午、国連などで講演されている立教大学大学院教授であり、観察の森の創設から関わってききました阿部治氏です。奮ってご参加ください。

マメ科の落葉高木。本州・四国・九州の日当たりの良い山野の水辺に自生、朝鮮・中国にも分布します。本県ではまれで、牛久では自生は確認されていませんが、島田町の旧家の入口に巨木があります。幹は高さ二十メートル、直径一メートルになります。幹に枝の変化した鋭いトゲがあり、写真のように独特の形をしており、これだけで他の樹木と区別が付きまます。葉は羽状複葉の楕円形で、

光沢があります。五〜六月枝の先に長さ十〜十五センチ、直径七〜八ミリの淡黄緑色の花を総状花序に付けまます。豆果は長さ二十〜三十センチ、扁平でねじれ、種子が十〜二十五個入っています。種子は約一センチの扁平楕円形で黒褐色。さやと種子はサポニンを含んでいるので以前は、さやは衣服の洗濯用せっけん代用、種子は漢方薬として利尿・去痰に使用されてきました。また、トゲが鋭いので魔除け・侵入防御などに植える風習があったようです。名前の由来は、漢方薬名の「早角子(ソウカクシ)」または古名の「西海子(サイカイシ)」がなまったものといわれています。(石川満夫)



幹とトゲ 08.5.19 渡辺

8月の里山カレンダー

* 活動日は都合により変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---------------------------------|--|----------------------|-----------------------------|----|--|
| | | | | | 1 | 2 |
| 3 巨木リサーチ (受) 8:30 市役所玄関 | 4 休園日 アヤマ園(受) 7:00 アヤマ園P | 5 雑木林応援隊 (畑) 9:30 畑 巨木リサーチ (受) 研修 | 6 | 7 アヤマ園(受) 7:00 アヤマ園P | 8 | 9 里山自然観察隊 9:00 森P そば 9:00 畑 会報原稿✓切り |
| 10 雑木林応援隊 9:00 ムジナ | 11 休園日 アヤマ園(受) 7:00 アヤマ園P | 12 雑木林応援隊 (畑) 9:30 畑 | 13 | 14 アヤマ園(受) 7:00 アヤマ園P | 15 | 16 じゃがいも 9:00 畑 |
| 17 運営委員会 9:00NC 理事会 11:00NC | 18 アヤマ園(受) 7:00 アヤマ園P | 19 休園日 雑木林応援隊 (畑) 9:30 畑 | 20 | 21 アヤマ園(受) 7:00 アヤマ園P | 22 | 23 巨木リサーチ(受) 8:30 市役所玄関 そば 9:00 畑 |
| 24 雑木林応援隊 9:00 炭小屋 | 25 休園日 アヤマ園(受) 7:00 アヤマ園P | 26 雑木林応援隊 (畑) 9:30 畑 | 27 会報発送 1:00NC | 28 アヤマ園(受) 7:00 アヤマ園P | 29 | 30 |
| 31 さとやまセミナー 10:00NC | | | | | | |

編集後記

「観天望気」 空の状況(雲や風向き等)を観察して天気を予測すること、生物(動物)の行動も含まれているようです。

田んぼの周りを散策していると、ツバメが何羽も低く飛んでいることがあります。ことわざでは「間もなく雨になる」。これは天気が悪くなると虫が低く飛ぶため、餌をとるツバメも低く飛ぶようです。

アリが行列をつくと雨になる。アリの巣が水没するからでしょうか?。観察の森の駐車場からNCに行く途中、黒い帯状になったアリの行列を見ることがあります。日本で主に行列するアリは「アミメアリ」で決まった巣を持たず、餌を求めて集団移動するのが特徴で女王アリは存在することなく働きアリだけで繁殖するようです。

このほかにも天気予報に関することわざはたくさんあります。気圧の変化や温湿度の変化を微妙に予知するのでしょうか。

関東の梅雨もあけ暑さ厳しい夏がきました。七月二十二日は「大暑」二十四節気の一つで最も暑い時期、「桐始結花(きりはじめてはなをむすぶ)」、そして二十四日は土用丑の日、うなぎを食べて暑い夏を乗り切りま

す。この時期、外での活動が多い会員の皆さん、熱中症には充分気をつけて下さい。体力をつけて暑い夏を吹き飛ばしてください。

佐藤輝雄(記)

広報委員会からのお知らせ

次号9月号の印刷発送は8月27日(水)午後1時からです。お手伝いいただける方はネイチャーセンターまでお越しください。よろしくお願いたします。